

# 人間万事塞翁が馬

校長 舘林 美和

2026年が始まりました。

冬休み中も大きな事故やケガ、病気もなく、全校児童の元気な登校が1月8日から開始され、嬉しく感じております。冬休み中の家庭生活へのご協力に感謝申し上げます。

さて、冬休み明け集会では、午年にちなんで、「馬」に関わることわざ「人間万事塞翁が馬」の話をしました。

昔々、中国におじいさんが住んでいました。ある日、おじいさんの大切な馬が逃げてしまいました。近所の人は「かわいそうに。」と慰めましたが、おじいさんは「これが幸せに変わるかもしれないよ。」と笑っていました。

すると数日後、逃げた馬がもっと素晴らしい馬を連れて帰ってきたのです。みんなが「よかったね。」と喜ぶと、おじいさんは「これが不幸の始まりになるかもしれないよ。」と言いました。

その後、おじいさんの息子がその馬から落ちて怪我をしましたが、その怪我のおかげで息子は戦争に行かずにすみ、命が助かった…。というお話です。

このことわざが伝えていることは、「目先のよいことや悪いことに一喜一憂しすぎる必要はない」ということです。

テストで思うような点数が取れなかった時、スポーツで負けてしまった時、挑戦してみたけれど上手くいかなかった時などに「もうだめだ。」「自分には才能がない。」とあきらめてしまうことはないだろうか。一方で、一度成功したり、思った以上の成果が簡単にいたりした時に「自分は天才だ!」「簡単にできる。」と油断してしまうことはないだろうか。

よく子どもたちが「無理やし…。」「もう、終わった…。」と発する言葉を耳にします。多少の失敗や不運は、人生が終わるほどのものではないのですが、子どもたちにとっては大きなショックである場合があります。これは経験値が少ないが故、そう感じてしまうのかもしれませんが。私たち大人は、これまでの多くの経験から「それくらい大丈夫。こんなことであきらめないで。」「油断大敵、気を引き締めて。」と、この先に広がる可能性を信じて声をかけることができます。子どもたちが目標に向かって努力し続ける意欲や、新たなことへ一歩踏み出す勇気をもつために、どのような言葉をかけてあげるとよいのか日々考えながら対応したいと思っています。

1月からの第6期の合言葉は『一つ上をめざすぞ』です。学級目標の達成を確認しながら学級の成果(宝物)を創り上げます。また学習では、自分ごととして考える授業を目指します。学年の仕上げに向けて「まだまだできるぞ!」とポジティブ思考と謙虚な気持ちで取り組んでいきます。

## 岐阜県地域子ども支援賞 受賞

### 原 富己夫さん

落合地区の防災士として、毎年の防災教育や5年生の根の上研修の講師として、また、毎日の登下校の安全ボランティア、年2回ある分団会での指導者としての活動等、長きに渡り様々な分野で学校教育や子どもたちの活動を支えていただいております。その功績が評価され、この度の受賞となりました。

おめでとうございます。



## 新しい遊具の設置



わんぱく広場に新たな遊具「ジャングルスライダー」が登場! ボルダリング壁もあり、子どもたちの好奇心をくすぐります。順番を守って安全に使う判断を培うことや、健康な体づくりに大活躍しそうです。

寒さに負けず、外遊びに Let's go!